

築地反射炉跡

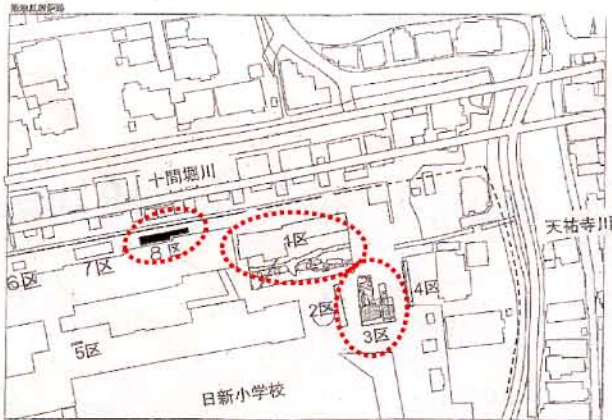
設置目的	長崎両島台場への鉄製砲配備
鑄造計画	36ポンド砲14門・80ポンド14門・150ポンド2門（自藩規格）
起工	嘉永3年7月（1850.08）
竣工	嘉永5年6月（1852.07）
炉配置	西炉2炉・北炉or東炉2炉（4炉構成）の逆L字型配置
平錐台	水車1基・三連錐台1基（3座）
改装	嘉永7年7月（1854.08） 改装後には幕府供給分も鑄造
鑄造実績	8ポンド砲10門（試験鑄造）・24ポンド砲7門（幕府規格）・36ポンド砲15門（自藩9・幕府6）・80ポンド砲4門（自藩規格）
解体	安政4年7月（1857.08）～ 安政6年10月（1859.10）



「築地大銃製造方見取図下絵図」部分（佐賀県立図書館蔵）



築地大銃製造方模型（佐賀城本丸歴史館蔵）



築地反射炉跡の発掘調査地点



築地反射炉跡 8区 北炉 or 東炉の基礎？（2014.08）



築地反射炉跡 3区 こしき炉の廃棄坑（2011.08）



築地反射炉跡 1区 溝跡（2009.08）